

平成 2 7 年度 宮崎県立都城農業高等学校 学校評価

段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
------	--------	-----------	------------	----------

本校の使命 創立 9 9 年の伝統と誇りを受け継ぎ、校訓を基調とした教育を実践し、宮崎県における農業教育のリーディングスクールとして県民に信頼される学校づくりを推進する。 《本校の使命》 (1) 時代の変化に適切に対応するため、柔軟な発想を持ち、豊かな創造性を発揮して、明日の本県の農業及び関連産業を支え、発展させる人材を育成する。 (2) 命・食・環境・福祉等の分野における問題解決能力を高め、持続可能な社会の形成と発展を担う人材を育成する。 (3) 高大連携・地域や関連機関と連携・協力して、将来、地域を担い、地域で活躍する人材及び 6 次産業化へ対応できる人材を育成する。 (4) 基礎・基本を重視した確かな学力と勤労観や職業観を持った人材を育成する。							
本校の目標（学校経営ビジョン 本校が目指す学校像） (1) 農業経営者育成高等学校としての使命を自覚した農業教育を実践する学校 (2) 生徒が意欲的に学び、将来の夢や進路を実現できる学校 (3) 命を基調とした農業教育の実践により、思いやりや気配りの心を育む学校 (4) 地域に根ざし、地域に開かれ、地域とともに歩む信頼される学校 (5) 生徒全員が明るく元気に登校できる、いじめのない安全で安心な学校 (6) 災害への備えや防疫体制の充実等に積極的に取り組む安全で安心な学校							
ビジョン実現のための重点目標 (1) 進路決定 1 0 0 % (2) 高大連携・地域連携の積極的推進と農業教育の充実を図る (3) 各種協議会と連携し将来につながる農業担い手の育成 (4) 学校創立百周年記念行事に向けての具体的な取り組み (5) 防災教育の充実（地震、火事、救急救命）※自分の命は自分で守る教育 (6) 携帯電話やスマートフォンから子供たちを守るための決議文の実践 (7) 部活動・農業クラブ活動の九州大会・全国大会出場							
関係校務分掌	今年度の重点目標	学期	重点目標達成のための各学期の取組	内部評価		外部評価	
				評 定	各学期の反省（課題となるところ）	評 定	説 明
教 務 部	成績不振による転退学者を無くす。	1 学期	各授業担当者に協力してもらい、期末テスト前に成績不振者指導を徹底しておこなう。	4	○システムの不具合の発生 ○成績入力や成績一覧表提出の締切日厳守 ○職員間におけるの情報共有	4 . 0	○生徒自身にも目標を立てさせ、達成度合いについて生徒自身に評価させてほしい。 ○学校で修得した授業内容が、社会人としてどのように活かされるのか等について、県内（市内）に就職した生徒等と意見交換の場を設定してほしい。生徒はそれによって学ぶ意義を考える一助となる。 ○デュアルシステムが学習への意欲につながってほしいです。
		2 学期	① 自宅学習の習慣化を図ることは欠点保持者を無くすことにもつながるので、1 学期同様、「日々課題」をしっかりとこなうように、機会を見つけては生徒へ呼びかける。 ② 1 学期同様、成績不振者の指導を徹底しておこなう。	3	○2 学期中間考査の成績不振者が多い。（3 桁） ・期末テストに向けた成績不振者指導の徹底 ○研究授業への参加者数が少ない。 ○H P の更新があまり出来なかった。		
		3 学期	今年度重点目標の達成 ※ 来年度のデュアルシステム実施に向けて農務部と連携し、年度内にある程度の目途を付けていきたい。	4	○新しい情報機器を活用した授業が少なく、そのための研修会が 1 回しかできなかった。 ○指導要録作成についての提案が遅くなった。 ○ホームページの更新が年間とおしてできなかった。		

関係校務分掌	今年度の重点目標	学期	重点目標達成のための各学期の取組	内部評価		外部評価	
				評 定	各学期の反省（課題となるところ）	評 定	説 明
生徒指導部	特別指導対象者、交通違反者 0	1 学期	① 生徒会委員会活動や部活動を中心とし、生徒自ら容儀等を正しマナー面の向上を目指す態度を育成させるための、日常的な取り組みを実施する。 ② 全職員の理解と協力により、朝の交通指導の継続実施と効果的なイエローカード指導を実施する。	3	○学年会や担任との細かな情報共有・連携をさらに深める。 ○常時指導（イエローカード）の効果的使用により問題行動を未然に防止する。	4. 0	○重点目標のクリアはなかったようですが、日々の指導で数はいぶん減少したとのこと。 ○携帯電話の校内持ち込みはできないのかもしれませんが、正しい使い方を指導できれば良いと思います。 ○表面化してこない問題もあるかと思います。たいへんだと思いますが、今後ともご尽力の程、お願いします。 ○近隣に住む者からみると農高生が一番礼儀正しい（都商、都工、etc）自分から率先して声をかけるすばらしさを体験してほしい。 ○あいさつがしっかりとできる事は人とのコミュニケーションのはじめの一歩だと思います。大きな声は大切です。これからも「当たり前のことが当たり前に見える」ようになると人生に笑顔が多くなると思います。人作りも大切です。
		2 学期	① 学校内外の行事等における問題行動を未然に防止するため、事前指導を十分に行う。 ② 朝の交通指導に加えて、昼食休憩時の校内巡回指導を実施し、生徒の現状把握と問題行動の未然防止に努める。	4	○携帯電話に対する指導が後を絶たない。イエローカードによる指導と併せて具体的な改善策が必要である。 ○あいさつや校歌斉唱に対する指導の効果が得られなかった。生徒会や部活動生を中心とした指導が必要である。		
		3 学期	① 問題行動を防止するための事前指導 ・ 服装容儀面、部室の管理点検、昼食休憩時の見回り、放課後の見回りや下校指導 → 生徒指導部を中心に、学年団や学科の協力を得て日常的に指導を行う。 ② あいさつ・校歌斉唱に関する具体的指導 ・ 朝のあいさつ運動の継続、集会時の校歌斉唱 → 生徒会・部活動生を中心に事前指導～全生徒へ波及するような具体指導	4	○問題行動や事故に対する事前指導体制 ○「予想し、未然に防止する」対策の工夫・改善 ○校則や内規について、問題や矛盾点を明確にし、その改善案を全職員で検討する。 ○あいさつ、校歌斉唱について、生徒会を中心とした活動を充実するとともに、100周年へ向けた指導・支援体制の構築が必要である。		
進路指導部	進路決定 100%	1 学期	進路ガイダンス、企業訪問、進路講演、面接ワークショップ、各種説明会、三者面談、進学・公務員課外等を実施し、進路目標の設定をさせる。	4	○昨年度本校卒業生の6名が離職。ミスマッチ解消に向けた取組が必要である。 ○進学先のいいなりのまま受験を決めるなど、担任や進路指導部に相談なく進学先を決める生徒への指導が必要である。 ○進路指導部担当職員の業務の負担が大きい。	4. 2	○年度末に進路決定100%は素晴らしいことです。先生方の熱意があつてのことと思います。機会を見つけてタイムリーな指導をお願いします。 ○5年連続進路決定100%は素晴らしいと思います。
		2 学期	① 年間計画に基づいて、各担当者が早期の立案と運営を確実に行う。特に、進路講話、進路講演会、面接指導の充実 ② 企業及び大学・短大・専門学校等の情報を十分活用し、一般企業就職内定率、公務員合格率及び上級学校への合格率の向上につなげる。 ③ ハローワーク等の公的機関と連携し、進路意識の高揚及び本校生徒に対するキャリア教育に活かす。	4	○3年生で問題行動（無断アルバイト）があった。再発防止に向けたクラス担任との連携を強化したい。 ○生徒の提出書類について、担任のチェックが甘い。誤字脱字が多く、書き直しが多かった。 ○オープンキャンパスでの面接やその後の書類提出だけで合格を出す専門学校への対応が必要である。 ○進路指導に係る事務を専門に対応する職員が必要である。		

関係校務分掌	今年度の重点目標	学期	重点目標達成のための各学期の取組	内部評価		外部評価	
				評 定	各学期の反省（課題となるところ）	評 定	説 明
進路指導部	進路決定１００％	３学期	① ３年生は、最後の一人まで進路決定を達成させる。 ② １・２年生への進路ガイダンスを通して、進路意識の高揚を図る。特に２年生へは、「進路ガイダンス」・「進学ガイダンス」を企画実施し、働くことの意味をしっかりと理解させるとともに、やりたい仕事と直結した進学校選びを実現させる。 ③ 本校職員及び高卒就職専門員による後期企業訪問を実施し、次年度につなげるものとしたい。	４	○面接指導の学科間差がある。教師側の指導の徹底を図り、改善したい。 ○進路関係行事への職員の参加により、生徒の態度改善と職員研修の効果があることを強調したい。 ○就職内定後の辞退が１件あった。 ○求人数が減少する時期が来る前に生徒の進路意識を高めておく必要がある。 ○国公立大学受験については３年生になってからの対策では遅かった。 ○進路決定後の生活指導のあり方が課題である。 ○公務員希望者の増加に伴い、模擬試験やセミナーを行う場所の確保や実施のあり方について検討が必要である。		○中学校から農高を選択した生徒は、毎年コンスタントに他校との競争倍率に勝ったという喜びがあると思う。しかし、卒業（２～３年生）を間近に控える選択した学科と全く別な企業に就職する生徒もいると思う。この生徒には真に学んだことに対しフォローすることが生徒たちに考え直す場になると思いますが、いかが？ ○進んだ道がその子どもの人生。やりたい事が高校生活で見つけられて夢の持てる高校に期待します。
農 務 部	① 地域社会に根ざした農業教育を推進し、学科の特色化を図るとともに、学科間の連携強化に努める。 ② 農業教育をとおして、キャリア教育の基本となる生き方・在り方（勤労観・職業観・人生観）の指導に努めるとともに、資格取得を推進する。 ③ 学校農業クラブ活動の積極的な推進及び充実に努める。	１学期	農業クラブ県連大会の各種発表会・競技会において、上位入賞できるように生徒の意識高揚を図る。	４	○農業クラブ県連大会の農業鑑定競技の入賞者が少なかった。 ○農業クラブ九州大会に向けた指導が必要である。	４．４	○座学だけではなく、実習が最も勉強のおもしろさを伝えられるものと思います。 ○祝吉小学校との食育は大事なことです。ぜひ続けてください。 ○多くの行事を実施されており、生徒への刺激となっている。 ○積極的に入り込んでいないので意見はないですが・・・毎年即売会に参加しています。生徒が花の苗を売りに来ますが、これも社会体験として見守っていく必要があると考えます。（感謝、言葉遣い、etc）
		２学期	① 夏期休業中に実施されるインターンシップの事前(事後)指導を各学科で行う。また、認定就農者研修会（農業科・畜産科）を実施する。 ② １１月に開催されるアグリフェスタ（即売会）の成功に向けて生徒・職員一丸となって取り組む。 ③ 生徒の進路実現に向けて、各学科での指導の徹底を行う。	４	○アグリフェスティバルは、期末テストが近いため、１週間前の実施について検討したい。 ○国内ホームステイの実施について、校内での連絡が遅れた。		
		３学期	① 農業クラブの校内大会（意見発表、プロジェクト発表）が、控えているので、各学科での指導をお願いしたい。 ② ＳＡＰ冬期大会が１月、自営者を囲む会を３月に開催予定である。 ③ 来年度のデュアルシステム実施に向けて教務部と連携し、年度内に関係機関との打合せも実施していきたい。	４	○デュアルシステムの進捗状況があまりよくない。特に受入先の確定は急ぐ必要がある。		
							○デュアルシステムに賛同し、期待を膨らませています。学校からも、どしどし地域に協力を要請して頂きたいと思います。ありがとうございました。 ○いろんな大会で都城農業高校の名前を見ることが多くて誇らしく思いました。これからも頑張ってください。